

(追加資料 1) ポスター掲示：

**「良性胆管狭窄に対する治療と経過」
診療情報の利用について**

対象となる患者様：

2006年9月1日から2017年3月1日までの間に当院および北里大学東病院で良性胆道狭窄と診断され複数回 PS 留置を行った患者様を対象と致します。

研究の意義：

良性胆管狭窄は手術に伴う胆管損傷、虚血性変化や、慢性膵炎などの慢性炎症に伴うものがあり、プラスチックステント (PS) 留置が標準的な治療とされています。低侵襲であるという理由に加え、全身状態が悪く、手術療法が困難と判断された場合などは、内視鏡的な胆管狭窄の解除が第 1 選択とされています。現状では治療の有効性、偶発症などの検討も十分ではないことからこれまでの治療成績や治療後の経過を十分に評価していく必要があります。

研究の方法：

先に記載した患者様を対象とします。必要な情報（具体的には、年齢、性別、既往歴、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査施行歴、PS 留置本数、PS 交換回数、合併症、胆管 PS を留置せずに経過できるか否か、転帰）を収集し、解析します。研究実施期間は、北里大学医学部・病院倫理委員会承認後から2020年3月1日までです。あらたに追加検査を行うことはありません。なお、診療情報はすべて個人が特定できないように匿名化して使わせていただきます。ご自分の診療情報を研究に使わないで欲しい、というご希望がありましたら、研究責任医師、あるいは担当医にご相談ください。その場合でも診療上何ら不利益はありません。

拒否申し出が可能な期限：2017年9月15日までにお申し出下さい。

施設研究責任医師 北里大学医学部消化器内科学 木田 光広

TEL: 042-778-8111 (研究事務局 安達^{あだち} 快^{かい} PHS 番号:17734)